

派遣報告書

ITP-EUROPA 委員会関係者各位

2011年4月10日

氏名 平田 周 (学籍番号：5408005)

派遣先 パリ

派遣機関 パリ第八大学

派遣予定期間 2010年7月1日から2011年4月4日

派遣の概要及び成果

報告者は、2009年9月からパリ第八大学哲学科において修士論文を執筆することを目的として留学を開始し、翌年2010年7月から今年の2011年3月まで本派遣プログラムのご支援を頂きました。本派遣プログラムにおいて、私は二つの目的を達成すべく研究に従事しました。一つは、2009年の留学の開始以来の目標であったアンリ・ルフェーヴルにおける空間の主題を巡って修士論文を書き上げることです。この目的は、2010年9月10日にパリ第八大学の指導教官であるアラン・ブロッサ教授に論文を提出し、同月30日に、ブロッサ教授に副査のジャン＝ルイ・デオット教授を迎えた口頭試問を経て、達成することができました。第二の目的は、続く10月から2011年3月までの期間において、博士論文を書き上げるための準備期間として、着実に進展していくように作業するということでした。そのために、フランスのルフェーヴル研究者たちと交流しながら、博士論文の研究計画を練り直しつつ、形になるものを日本語の論文として発表することを心がけました。修士論文ではルフェーヴルの日常生活、都市、国家の主題を中心にルフェーヴル自身の空間論を主に論じましたが、博士論文では「ルフェーヴルの思想の場」と題して、彼の思想とその位置づけの関係を論じることを計画しています。このタイトルには、彼の思想の場を論じることが、彼の空間の思想を論じることであると同時に、彼の思想が位置づけられる場所を論じることでもあるという二重の意味を込めました。ルフェーヴルの思想そのものとそれを枠づけるフレームを複眼的に見るということは、クロノロジックな観点からのアプローチが多いフランスのルフェーヴル研究に対して、テーマティックにアプローチすることで、ルフェーヴル研究とフランス思想へと貢献できるものであるという考えに達しました。

また、派遣期間中において、『民主主義は、いま？』（邦題）の翻訳者の一人としてかかわった著作を出版することができました。また、今年の1月末に、同年の9月に開催されるポルトでの国際学会発表のための発表計画の審査に通過し、同学会で発表することが決まりました。これらの活動を通して、微力ではありますが、日本と自らの研究対象地域であるフランスとの関係を結びつけることに貢献するであろうと考えております。

今後の課題

今後の課題は、博士論文を書き上げるために、進展した研究を区切って論文の形にすることです。現在執筆中の論文は、ルフェーヴルと、彼と同時代において論争を繰り広げたルイ・アルチュセールとの関係についてのものです。人間主義的マルクス主義対認識論的マルクス主義、歴史か構造か？といった論争において振り分けられてきた二人の思想の関係は、ルフェーヴルの思想とその思想史的な枠組みを考える上で、再度取り上げる価値のあるものだと考えております。6月末日締切の紀要に投稿できるように完成させたいと考えております。